

なか区民活動センター情報誌

ナカログ

Spring2011
Vol. 29



2
3
P

講座・イベントレポート

・NPO・市民活動交流会もなカフェ 2011

4
P

が ら が ら
学・楽・学・楽ぽんっ！活動の達人にインタビュー

・子ども達への読み聞かせ…賀谷恭子さん

5
P

なか区民活動センター登録団体紹介

・NPO法人アクションポート横浜
・本牧山頂公園和田山地区地域連絡会

6
P

活動に役立つヒント

・中区活動団体補助金制度説明会のお知らせ
東北地方太平洋沖地震について
・義援金情報
・災害ボランティア情報

7
P

なか区民活動センター・なか国際交流ラウンジの風景

・環境系団体の意見交換
・オレンジリボン運動
・外国人ニューカマーのための日本語教室

是非・ご利用ください。

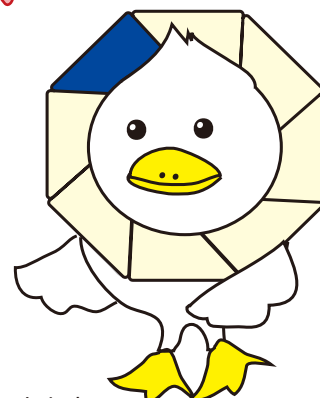
腹がへっちゃ…“会議・打合せは出来ぬ”…?



なか区民活動センターでは
ミーティングエリアや研修室への
飲食物のお持込みはOKです♪

NPO・活動団体さんのミーティングや
交流会などにおススメです♪

～ゴミは必ず、お持ち帰り頂いております～



もなか
なか区民活動センターのマスコット



講座・イベントレポート

なか区民活動センター主催の自主事業報告です

NPO・市民活動交流会もなカフェ 2011

「ツナガリの種をまこう!! ネットワーク力作戦会議」

開催日 1月29日（土）13:30～16:30

場 所 なか区民活動センター ミーティングエリア



ゲストスピーカー 鍋木さん（左）と高城さん（右）

■開催概要

NPO や市民活動に必要な「情報・人材・資金・場所」を効率的に得るためのネットワークづくりを目的とした「もなカフェ 2011」が開催されました。

前半のシンポジウムではゲストスピーカー、鍋木孝昭さん（持続可能なコミュニティを本気で作る大人たちの会事務局長）と高城芳之さん（NPO 法人アクションポート横浜事務局長）による NPO や市民活動がつながるためのハブ的な機能や若者の参画を促す仕組み、市民活動・地域の取組みに参加しようかと考えている人の“一歩”を手助けする仕組みなどについてシンポジウムを行いました。

後半はファイシリテーターに小野 "Perry" 行雄さん（NPO 法人草の根援助運動）を迎え、NPO や市民活動とはそもそも何かなどをテーマにワールドカフェ形式の交流会を開催しました。

シンポジウムから交流会にかけて 42 団体、約 55 名の参加がありました。

■活動をつなげるハブ的イベント

シンポジウムでは、NPO・市民活動がつながる土壌が横浜は充実してきている点があげられ、日本大通りで毎年9月に開催される環境系イベント「カーフリーデー」や環境系と福祉系のそれぞれの団体が交流する「はまティー」などのイベントが NPO や市民活動がつながるためのハブ的機能を発揮しているといった事例が紹介されました。

また、NPO・市民活動をつなげる中間支援組織に携わる高城さんからは、つながる現場を体感する機会として、市民や企業と一緒に協力するまちづくり活動「みなとみらいクリーン大作戦」が紹介されました。

■若者の NPO・市民活動への参画

若者が NPO や市民活動に参画することについて、若者を努めて巻き込もうとしたり、学んでもらおうと働きかけるより、「(若者自らが)、私たちの活動を実際に見て、感

じ取ってもらふことで自然と関わってもらえるのでは」と、鍋木さん。

一方、高城さんからは、若者による市民活動の広報支援プロジェクト「YOKOHAMA ACTION PLANNER」（ヨコハマアクションプランナー）という取組みが紹介され、地域NPOや団体とともに地域を盛り上げるために、若者のアイデアやスキル、主体性を活かしていきたいという話もありました。

■ボランティア活動と地域とのつながり

会場からは栄区の地域通貨「イタッチ」が地域住民のつながりやボランティア活動のきっかけづくりになっていることが紹介されました。

また、20代から30代の若者が関内駅近くの大通り公園で清掃ボランティアに取り組んでいることを紹介した参加者からは、同じような世代だけで活動するのではなく、今まで以上に積極的に幅広い世代との交流や地域とのつながりを希望する声が聞こえました。



ワールドカフェでの意見交換

■ワールドカフェ形式で意見交換

参加者は7つのテーマに分かれて2つのテーマを選び活発な意見交換が行われました。

各テーブルのホスト役となるテーブルマスターは、なか区民活動センタースタッフだけではなく参加者も担当しました。

テーブル①「ボランティアってなんだろう」
ボランティアの有償、無償について

テーブル②「組織－NPO」
NPO法人のメリットとデメリットについて

テーブル③「運営方法」
メンバーの定着性と継承性のバランスについて

テーブル④「ネットワークの広げ方」
解決策の一つとして自分の弱さを知ってもらい
人の力を借りる必要性

テーブル⑤「広報の工夫」
活動を多くの人に知ってもらう方法について

テーマ⑥「市民活動で苦勞すること」
人や資金を集めるための口コミについて

テーブル⑦「これさえあれば万全」で
イベント運営ボランティアスタッフやサポーターを確保について

■フェアトレード珈琲や国産素材菓子

参加者を和ませてくれた飲食販売ブース。地域作業所カブカブなどで活動中の西山哲也さん（珈琲工場 & 百屋）や門松貴子さん（世織書房）、牛尾みきさん（県立みどり養護学校）のご協力のもと、フェアトレード珈琲や国産小麦などで作られたクッキーなどが販売されました。

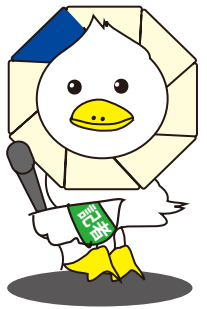
■NPO・市民活動のネットワーク

NPO 法制定の原動力となった平成7年の阪神・淡路大震災。全国から多くのボランティアが集まり、活発に展開されたボランティア活動への高い評価と、ボランティア活動の法人化への機運の高まりを受けて、平成12年4月に特定非営利活動促進法（NPO法）が制定されました。

NPOや市民活動は「新たな公共の担い手」として期待され、地域課題の解決のための事業や取組みが広がっており、NPO・市民活動がさらに活動の推進を図るため、他団体と連携を深めるネットワーク力強化が求められています。 <報告 内多>



活動の達人にインタビュー



長年読み聞かせの活動に取り組まれている賀谷恭子さんの活動は、地域や関係施設などから厚い信頼を得られています。

お会いした瞬間から「この方なら！」というオーラを感じました。

その秘密を解き明かしたく、さっそくインタビューさせて頂きました。

きめ細やかで丁寧な活動を継続されて来られた様子が印象的でした。



読み聞かせの活動は、どのくらい続けていらっしゃるのですか？

13年ほど前、当時は学校や図書館でボランティアが読み聞かせを行うのは難しい時代でしたが、まず子どもがいる2年生のクラスで仲間と始めました。

その後、大鳥中学校コミュニティハウス館長からお声を掛けていただき、地域の三つの小学校に子どもが通うメンバーで「こどりの会」として「おはなしの時間」という活動を始めて今年で10周年。

最初は14人のメンバーでスタートしました。

イベントではなく継続性のある月二回の「おはなし会」という形で取組んできました。

参加した子のご兄弟やお友達を誘って集まるようになり、広まっていきました。メンバーは子どもたちの名前を覚え、名前で呼んでいます。

大人の方のご参加もあり、他区からもご年配の方が、わざわざ電車やバスを乗り継いでいらして下さいます。

「こどりの会」と地域のつながりでは？

宮沢賢治をテーマにした「大人が楽しむおはなし会」をコミュニティハウスで開催の際に、中図書館では宮沢賢治の図書コーナーを設置してくださいました。

また、横浜ユーラシア文化館で「遊牧世界の造形展」開催中にモンゴルの絵本

のおはなし会を五日間行ったときは、中図書館がモンゴル関係の図書を揃え会場に陳列してくれました。

ユーラシア文化館と、中図書館がつながったと感じましたし、大鳥中コミュニティハウスや図書館の館長、司書さんもいらしてくださり、人と人がつながっていくのを実感しました。

「こどりの会」以外でも活発なご活動をされているのでしょうか？

小学校での読み聞かせは、息子たちのクラスから全校へと広がり、今も小学校の保護者の方々に引き継がれています。各クラス共、連絡ノートを確認し、担任の先生も当初から目を通して下さっています。私も今もいろいろな学年のクラスに伺っています。子どもたちとその後図書館やコミュニティハウス、街なかで会うととてもうれしいです。また、中図書館や地域の保育園、子育て支援の場、グループホームなどでも「おはなし会」を行っています。

子どもの成長とともに活動を止めてしまう方も多いと思いますが？

家庭の事情で止めてしまう方もいますが、活動が好きでできる形で続ける方は多いです。

「おはなしの時間」はスタートして以来、一人も子どもが来なかったという日はありません。

すごい悪天候の日、さすがに誰も来ないだろうと思っていたら、常連さんの子どもがひとり来てくれました。とても嬉しかったのを憶えています。

そういったことのひとつひとつがみんなの励みになっています。

今後の展望はいかがですか？

個人的にもグループとしても是非活動20周年を迎えたいです。

ケアプラザやグループホームでの活動も地域や図書館の方とともに継続したいと思っています。

インタビュー 牧野

NPO法人アクションポート横浜 ワクワクさせる多様な連携



2010年12月開催の横浜サンタプロジェクト

多様な地域の課題を解決するためには、NPOがさらに力を高めていくとともに、企業や大学、行政などセクター間の連携が必要です。

アクションポート横浜では、企業・教育機関・行政・市民活動団体とともに横浜をわくわくさせる事業を行っており、多様な組織との連携やネットワークづくりを通じて、横浜を盛り上げていきます。

・横浜サンタプロジェクト

例年12月には横浜サンタプロジェクトを実施しています。

2009年から始まったこの取り組みは、サンタになって横浜に笑顔届けよう！というコンセプトのもと、サンタが横浜に集まり、活動しました。

プロジェクト実施にあたっては、企業やNPO、学生などが実行委員となって企画運営を行います。

NPOだけで企画を練るのではなく、多様な専門性をもつ企業と連携することで、活動の幅が広がり、2010年度は350名のサンタが集まることができました。

■サンタプロジェクトに関する詳細はこちらまで↓
<http://actionport-yokohama.org/action/santa/>

・YAP (YOKOHAMA ACTION PLANNER)

若者のアイデアやスキル、主体性を活かし、地域NPOや団体と手を取り合いながら、一緒に考え、地域を盛り上げるプロジェクトYAPも運営しています。

■YAPに関する詳細はこちらまで↓
<http://yokohama-ap.jp/>

登録 No. なか -124A*(注) / 代表者 昌子 住江
E-mail アドレス / info@actionport-yokohama.org
電話番号 045-662-4395
Fax 番号 045-223-2888
web サイト URL : <http://actionport-yokohama.org>

本牧山頂公園和田山地区 地域連絡会

「自然と人」をキーワードに活動

平成22年度ヨコハマ市民まち普請事業第2次コンテストを通過した「本牧山頂公園里山あそびプロジェクト」。

本牧山頂公園最後の整備区域で「子どもたちに身近な自然体験をさせたい」と地域でそれぞれ活動する団体が集まり連絡会を発足。

当初、「市民が作り続ける。自然再生。公園をコミュニティの場に。」と掲げたが簡単に事は運ばず、ヨコハマ市民まち普請事業へ応募しました。

連絡会は2次コンテスト直前、メンバー以外の協力者などから菜園指導や他団体とのネットワーク作りについてアドバイスを受けながら、公園イメージの一致、活動の方向性、組織作りなどを行ってきました。

行政との対応は都合のつくメンバーとコアメンバーが行くように努めてきました。

地域や町内会等へは会報(丘の風)の回覧をお願いし、ホームページによる広報でなく、「まずは地域の方に理解を」と心がけました。

2次コンテストを通過後、自ら整備、維持管理が始まる今年の春。

「自然と人」をキーワードに活動を多々模索している連絡会では、「多くの方から知恵・力をいただき、それを地域へ還元、発信するつながりの中で子供たちが育つ空間作りをしたい」と意気込んでいます。

登録 No. なか -065B

代表者 黒柳 市枝

E-mail アドレス / tamura-0511@S6.dion.ne.jp

電話番号 045-622-3695

Fax 番号 045-622-3695

■「ヨコハマ市民まち普請事業」とは

市民のみなさんが地域の特性を生かした身近な生活環境の整備(施設整備)を、自ら主体となって発意し実施することを目的として、市民のみなさんから身近なまちのハード整備に関する提案を募集し、2段階の公開コンテストで選考された提案に対して最高500万円の整備助成金を交付するなど市民が主体となった整備の支援を行う事業です。

■まち普請事業に関する詳細はこちらまで↓
<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/machibushin/>

* (注) NPO法人アクションポート横浜の登録 No. なか -124A は平成22年度3月31日までです。平成23年度4月1日からは登録番号が新しく変わります。

活動に役立つヒント



昨年春、なか区民活動センターでは中区活動団体支援事業としてスタートアップコースとパワーアップコース、2種類の補助金を交付しました。平成23年度の補助金制度について説明会を開催します。是非、お越しください。

中区活動団体補助金説明会のお知らせ 中区を元気にする活動を応援します！

4月5日（火）午前10時～／4月8日（金）午後6時～

＜場所＞ なか区民活動センター研修室 ＜申込＞ 不要です。当日直接お越しください。

中区活動団体補助金～スタートアップコース・パワーアップコース～

中区では区内で活動しているグループや団体の活動・事業に対して補助金を交付します。補助金交付に際して説明会を開催します。多くの団体の方の御参加をお待ちしています！！

＜補助金概要（平成22年度実績です。予告なく変更することもあります）＞

- コース・スタートアップコース 金額：5万円以内（補助金は補助対象経費の1/2）
条件：結成から4年以内で、区内で活動する3人以上の団体（法人不可）
- ・パワーアップコース 金額：10万円以内（補助金は補助対象経費の1/2）
条件：過去3年以内に横浜市から補助金を受けていない、区内で活動する3人以上の団体

○対象まちづくり、環境、子ども、国際交流などをテーマとした公益的な事業及び活動

＜お問い合わせ＞ 中区地域振興課市民活動支援担当 TEL224-8135

東北地方太平洋沖地震で被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

◆義援金情報と災害ボランティア◆

東北地方太平洋沖地震の被災者のためのと義援金とボランティア活動についてご案内します。

◆義援金情報

中央共同募金会、日本赤十字社では、被災者の方々の救助の一助とするため、災害義援金を受け付けています。受付方法は郵便局や銀行から振込、又は、現金書留等。

詳細は下記のホームページでご確認ください。

◆社会福祉法人中央共同募金会

<http://www.akaihane.or.jp/>

■TEL 045-312-6339

（社会福祉法人神奈川共同募金会）

◆日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp/>

■TEL 045-681-2123（日本赤十字社神奈川県支部）

災害ボランティア・NPO活動支援のための募金情報は下記へ。

◆社会福祉法人中央共同募金会

<http://www.akaihane.or.jp/topics/detail/id/61/>

◆NPO／NGOの支援活動・募金受入情報

（東京ボランティア・市民活動センター）

<http://www.tvac.or.jp>

■TEL 03-3235-1171

◆災害ボランティア情報

被災地へのボランティアについては、現在、現地での災害ボランティアセンターの設置がすすんでいますが、具体的な受け入れについては、準備段階にある状況です。一部の地域では被災地域在住者に限定してボランティア活動の受け入れを実施しているところもあります。詳細は下記のホームページでご確認ください。

◆横浜災害ボランティアネットワーク会議

<http://www.yokohama-saigai-vol-net.jp/>

■TEL 045-201-8620

（事務局：社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会）

◆神奈川県災害救援ボランティア支援センター

（かながわ県民活動サポートセンター）

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/0051/saigai-v/>

■TEL 045-312-1121（内線2822）

◆全国社会福祉協議会 被災地支援 ボランティア情報

<http://blog.goo.ne.jp/vc00000/>

◆内閣官房震災ボランティア連携室 連携プロジェクト

3.11 救援情報サイト助けあいジャパン

<http://www.tasukeaijapan.jp>

共同募金会及び日本赤十字では原則として個人の方からの物品寄贈は受け付けていません。

被災地入りをお考えの方はすぐに行動せず、ホームページで被災地情報をあらかじめご確認ください。

なか区民活動センターの風景

プラス
+ なか国際交流ラウンジ

ミーティングエリア

2010年12月18日（土）



中区、関内駅近くの大通り公園で毎月第3土曜日に清掃ボランティアをされている20代・30代を中心にした団体、Love & Green Yokohamaと登録団体、横浜カーフリーデー実行委員会が意見交換をされていました。

「なか区民活動センターの紹介で私たちは知り合いました。環境やまちづくりの活動をしており、今度一緒に不要になった衣類を使ったカラフルなコサージュ作りやろう！と考えています。

明るい雰囲気では話が進み、楽しい企画となりそうです！」

コメント：Love & Green Yokohama

宮路加奈子さん（写真 手前左）

センター外壁

2010年11月20日（土）～12月16日（木）

なか区民活動センター壁面が「子ども虐待防止」を呼びかけるため、なか区民活動センターに登録している子育て支援団体の「NL Chio」さんにより、オレンジリボンと子ども達の手形で彩られました。

中区役所では11月の「児童虐待防止推進月間」に合わせ、区役所の壁面を装飾するなど、児童虐待防止の啓発に取組みました。

◆オレンジリボンとは「子ども虐待防止」シンボルです。
オレンジリボン運動公式サイト <http://www.orangeribbon.jp>



なか国際交流ラウンジ



平成23年2月8日（火）なか国際交流ラウンジ主催「外国人ニューカマーのための日本語教室」受講生を対象に、生活マナー講習会「ごみの分け方・出し方」が区役所会議室にて開催されました。

ごみ分類の説明を受けた後、ごみの正しい分別を学べるクイズが行われました。

お知らせ：「外国人ニューカマーのための日本語教室」は、なか区民活動センターで、毎週火曜日と木曜日、10：30～12：00に開催しています。

センターからのお知らせ

● 保育ボランティア養成講座 参加者募集中!! 保護者の社会参加を支援します

子育て中の保護者が講座などに参加している間に

子どもたちのお世話をするボランティア“一時託児協力者”として活動してみませんか？

日本赤十字社の指導員より、幼児の心肺蘇生とAEDの使い方も学べます。

日 時：1. 4月21日（木）一時託児とは？ 幼児とかかわるうえで大切なこと

2. 4月28日（木）幼児の心肺蘇生とAEDの救急法

全2回 いずれも10時～12時

場 所：なか区民活動センター

参加費：無料

申込み：電話、FAX、E-mailで先着順

対 象：受講後一時託児協力者として活動できる方

定 員：15名

締 切：4月18日（月）

※定員に満たない場合は締切後も受付。

詳細はお問合せを

なか区民活動センター TEL 224-8138 / FAX 224-8343



E-mailでお申し込みされる方は、
こちらのQRコードをご利用ください。

なか区民活動センター 施設利用のご案内

中区民や横浜市民の自主的な活動（市民活動・生涯学習・地域活動など）をサポートする施設です。

🌸 開館時間

午前9時～午後9時

🌸 休館日

毎月第4月曜日
（祝・休日の場合は
翌火曜日及び年末年始）

🌸 施設の利用について

中区民・横浜市民の自主的な活動（市民活動・生涯学習・ボランティア活動・地域活動などの公益的な活動）にご利用いただけます。研修室や一部の設備の利用には団体登録が必要です。

🌸 利用登録

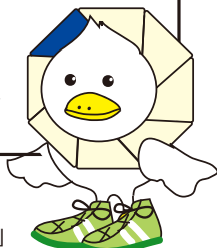
研修室・ミーティングエリア・印刷室の予約、貸ロッカー・レターケース、貸出機材を利用する場合は利用登録が必要です。登録申請にはセンタースタッフとのヒアリングや審査があり、少々お時間をいただきます。



「ナカログ」はバックナンバーも含めて、なか区民活動センターのホームページでもご覧いただくことができます。

なか区民活動センター ホームページ
<http://www.city.yokohama.lg.jp/naka/ncac/>

なか区民活動センターマスコット「もなか」



みなとみらい線 日本大通り駅



「なか区民活動センター情報誌・ナカログ」編集・発行／なか区民活動センター編集室

問 合 せ／なか区民活動センター（中区地域振興課） TEL 045-224-8138 FAX 045-224-8343

〒231-0021 横浜市中区日本大通 34 E-mail : na-katsudou@city.yokohama.jp